

平成 28 年度市自委第 7 号協働パイロット事業

「放任竹林の竹粉を活用した生ごみ減量化プロジェクト」業務

特定非営利活動法人丸子まちづくり協議会（環境部会）

1 委託事業の名称

平成 28 年度市自委協働パイロット事業

「放任竹林の竹粉を活用した生ごみ減量化プロジェクト」業務

2 事業の目的・趣旨

丸子地域の放棄竹林の竹を伐採・粉砕して生じた竹粉を用いて家庭生ごみの堆肥化を促進する事業を実施し、市民が恒常的に竹粉を活用できる仕組みを構築することで、市内の放任竹林減少による環境保全と家庭生ごみ減量化を図る。

3 事業実施期間 平成 28 年 7 月 4 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

4 実施場所 静岡市内丸子地域

5 事業内容の報告

(1) 竹林の伐採と竹の粉砕

- ・丸子まちづくり協議会の環境部会員を主体に放棄竹林の伐採と竹の粉砕を行った。

9/24、9/26、11/26、2/11 の 4 回、延べ 48 人が参加、約 4 トンの竹粉を製造

- ・竹粉保管倉庫を作った。

9/16、参加者 6 人で、葵区大河内の間伐ヒノキを利用して建坪約 4 m²の竹粉一時保管倉庫を作った。

(2) 竹粉の利活用促進

- ・粉砕した竹粉を袋詰めにし、まちづくり協議会メンバー及び一般市民に無料提供した。

宿場祭りで 300 袋 (1.5 kg/袋) 配布、まちづくり協議会メンバー及び地域住民に適時配布

- ・竹粉の利用方法を記したパンフレットを作成配布して竹粉堆肥作りを啓発推進した。

パンフレット 10,000 枚、ポスター 10 枚印刷

(3) 生ごみ堆肥化の実証及び周知

- ・まちづくり協議会メンバーを主体に生ごみ減量化を実証した。

10 人、6 か月間

- ・竹粉の堆肥化に関する情報収集や研修会への参加を通じて効果的な堆肥化方法を研究した。

発泡スチロール 2 箱による堆肥化、衣装ケースによる堆肥化等

- ・新聞、テレビ等のメディアに活動状況を掲載してもらい生ごみ減量化を啓発した。

新聞 3 回、テレビ 2 回、農協広報 1 回

- ・生ごみ堆肥化と並行して農業用土壌改良剤としての効果を研究した。

現在、野菜、果樹等に施工中

6 実施の効果

(1) 協働の効果

ア 放棄竹林伐採による環境保全及び景観維持

- ・約 500 m²の放棄竹林を伐採することで景観を保全するほか、イノシシの生息場所を除去した。

- ・粉砕機の借用や情報提供を通じて市との協働活動を実施した。

- ・まちづくりメンバー主体で伐採作業を実施したことが地域内に伝わり、新たな協力者が増えた。

イ 竹粉の利用による生ごみの減量化

- ・まちづくりメンバー主体に恒常的に生ごみ堆肥化を進めたところ、1 か月程度で確実に優良堆肥ができあがった。

- ・できた堆肥は野菜畑に散布しているが、収穫物の質量への変化はまだ確認されていない。

ウ 生ごみ堆肥事業による関係者の意識

- ・竹林での伐採及び粉碎はきつくて危険な作業であるが、参加者間の仲間意識で楽しいものへと変わっていった。
- ・さらに伐採作業と堆肥化の実践を通じて、家庭生ごみの排出実態や市が抱える処分コストを知ることができ環境意識が高まった。
- ・農協が協力者になったことで啓発や配布の仕組みが幅広くなった。

(2) 今後への提言

- ・1週間に1~2人程度が竹粉を取りに来ることはあるものの、生ごみ堆肥化が早急に浸透することはないと思われるので、現在の活動を継続するとともに自治会の会合などで説明会を進めていく必要がある。
- ・竹粉を作るには多くの手間とコストが必要。今後は労賃を補てんでできる有料化が検討されるべきであり、これがあって持続的な活動になるものと考える。
- ・竹粉碎の効率化をねらいとして定置型の粉碎机を導入し、そこへ伐採した竹を持ち込んで粉碎する仕組みについて検討する必要がある。
- ・生ごみ堆肥化と並行して、竹粉の土壌改良剤としての効果を検証していくことが新たな課題として浮上してきた。そのため行政、試験研究機関等とも連携が必要である。

(3) 参加者の感想

- ・竹の伐採及び粉碎作業は傾斜地でのきつい作業や粉碎机での危険性を伴うため注意が必要だった。
- ・10~15人程度で半日の作業を行ったが、作業中の会話や作業をやり終えた充実感などを得られ大変楽しいものだった。
- ・それ以上に、放棄竹林の解消、生ごみ焼却コストの削減、環境保全など社会に役立つ活動を行っているとの認識が高まった。

(4) 協働相手の意見・感想

- ・行政側のごみ減量推進課、環境創造課では先進的に竹粉による生ごみ減量推進を実施しており、当プロジェクトもこの活動に沿ったもの。当プロジェクトを通じて市民としての具体的な啓発・推進活動は評価されたのではないかと。

7 協働・協力機関

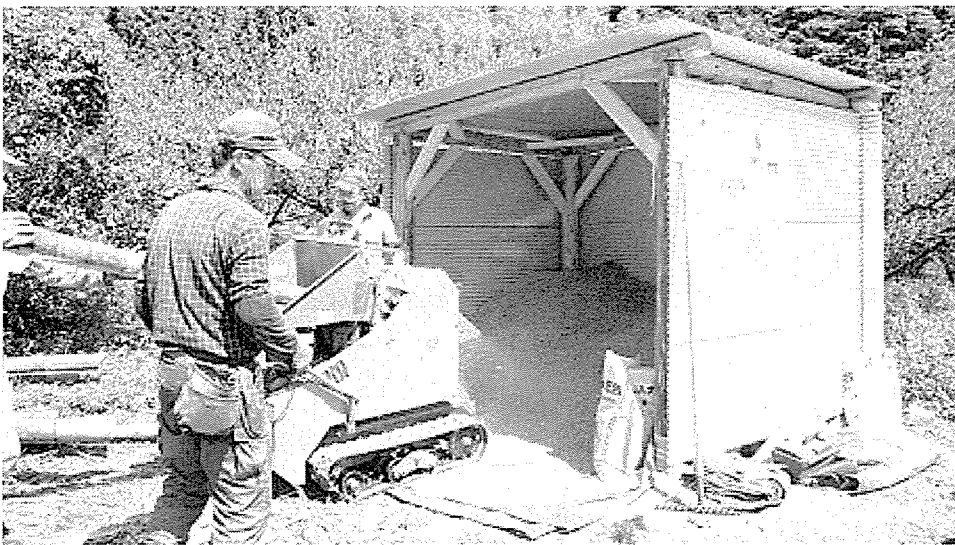
静岡市環境局 環境創造課、ごみ減量推進課、静岡市農協丸子支店

8 担当スタッフ

	担当業務	氏名	団体役職
1	全体統括	松川和夫	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会部会長
2	事業進捗管理	大原正和	NPO 丸子まちづくり協議会副理事長
3	会計	鈴木須美子	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会副部会長
4	渉外	中西勝巳	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会員
5	スタッフ	14人	作業班



◆まちづくり協議会メンバーで竹林を伐採して粉砕機まで運ぶ



◆粉砕機を使って竹粉を粉砕し保管倉庫で一時保管する



◆市から借用した粉砕機

竹粉で堆肥を作ろう

- ・丸子まづくり協議会では放任竹林から切り出した竹を粉砕機で竹粉にします
- ・竹粉を家庭生ごみと混ぜて堆肥を作ります
- ・1か月ほどでできた竹粉堆肥は家庭菜園や農家の畑に撒きます

- ①放任竹林が少なくなり、景観や環境が良くなります
- ②鳥獣被害や竹林崩落の危険性が少なくなります
- ③市の可燃ごみ全体の4割を占める家庭生ごみが減り、処分コストが減ります
- ④畑に堆肥を撒くことでおいしい農産物が生産されます

竹粉ってなあに？どんなふうに見えるの？



環境部会のメンバーが放任竹林を伐採しています

伐採した竹を集め、1本ずつ粉砕機にかけて竹粉にします

どうやって堆肥にするの？

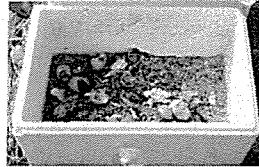
竹粉と生ごみを混ぜて堆肥づくり

- ①堆肥づくりのための発酵スチロール等の箱（50cm四方程度）を用意します
- ②最初に竹粉を5センチほど敷き詰め、その上に水をよく切った生ごみを入れていきます（竹粉 250g：生ごみ 800g）
- ③生ごみを入れたら1日に1回程度かさ混ぜます
- ④これを繰り返し1か月後には堆肥が完成します
- ⑤できた堆肥は家庭菜園や農園などに撒きます
- ⑥もしも撒くところがない場合は近所の農家やまづくり協議会にお願い合せてください

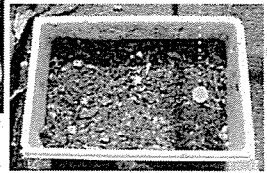


堆肥ができるまで

竹粉と生ごみを混ぜます



竹粉と生ごみを混ぜて1か月後の状態



竹粉堆肥づくりの注意点

- ・竹粉 10kgほどあれば、4人家族1か月分の生ごみを処分することができます。
- ・竹粉と混ぜる生ごみは何でもOKですが、大量の草や葉、貝殻などは堆肥化しにくいので混ぜないで下さい。また、ダイコンなど大きな残渣は細かく刻んで下さい。
- ・生ごみを混ぜるときはできるだけ水を切ったほうが良く、また、堆肥づくりの入れ物は雨にあてないで下さい。
- ・害虫が湧く場合もあるので、布をかぶせて遮断しておくとう良いです。

竹粉の入手方法

- ・丸子まづくり協議会では、この活動の賛同者に竹粉を無料で配布します。秋から冬の間に放任竹林の伐採と竹の粉砕作業が終わります。ストックした竹粉を配布します。
- ・竹粉は北丸子2丁目（戸斗ノ谷自治会地内「湯の口地蔵尊」横）の保管場所にストックしておきますので、希望者は受け取りに来て下さい。
- ・丸子まづくり協議会環境部会が主体で竹粉堆肥づくり活動を始めていますが、人手が足りませんので賛同する方は一緒に活動していただければ幸いです。

お問い合わせ
ご連絡先

※ 竹粉の名称は「環境部会」で、2018年度は丸子まづくり協議会環境部会
 丸子まづくり協議会環境部会 事務局 環境部会 事務局 事務局
 〒410-0001 静岡県沼津市北丸子2丁目1番地 環境部会事務局
 1 電話 090-7866-7679
 2 郵送 丸子まづくり協議会環境部会事務局 〒410-0001 静岡県沼津市北丸子2丁目1番地
 3 竹粉を配布する場所には必ず「環境部会」の名称を記載してください。

認定 NPO 法人
 丸子まづくり協議会環境部会
 松川和夫 090-7866-7679
 大塚正和 090-3422-7466

◆竹粉堆肥化啓発用パンフレット